

■ 各日の質問予定者

日	順 番	氏 名
9月20日(水)	1	橋 本 洋 一
	2	小 林 和 孝
	3	武 藤 正 信
	4	杉 田 勝 典
	5	高 橋 浩 輔
	6	こ ん ど う 彰 治
	7	宮 川 大 樹
	8	池 田 尚 江
9月21日(木)	9	中 土 井 か お る
	10	山 田 忠 晴
	11	高 山 ゆ う 子
	12	小 山 よ う こ
	13	渡 邊 隆
	14	波 多 野 一 夫
	15	滝 沢 一 成
	16	丸 山 章
9月22日(金)	17	本 山 正 人
	18	ストラットン恵美子
	19	宮 崎 朋 子
	20	木 南 和 也
	21	鈴 木 め ぐ み
	22	栗 田 英 明
	23	飯 塚 義 隆
9月25日(月)	24	大 島 洋 一
	25	宮 越 馨
	26	平 良 木 哲 也
	27	橋 爪 法 一
	28	安 田 佳 世

※各日の質問予定者は、変更になる場合があります。

順番	質 問 事 項
氏名	
<p>1</p> <p>橋 本 洋 一</p>	<p>1 渇水対策について (1) 当市の渇水の状況と農業被害、市民生活への影響、市の対応について聞きたい。</p> <p>2 屋根雪下ろし命綱固定アンカー等について (1) 命綱固定アンカー等の屋根の雪下ろし中の転落防止設備のこれまでの補助状況と、市の対応について聞きたい。</p> <p>3 災害用マンホールトイレについて (1) 当市における災害用マンホールトイレの整備状況はどうか。また、導入に向けた課題と検討状況について聞きたい。</p> <p>4 鳥獣捕獲対策について (1) 平成25年に環境省及び農林水産省が策定した「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」では、「ニホンジカ、イノシシの生息数を10年後までに半減させる」という当面の捕獲目標を設定しているが、当市の鳥獣捕獲対策の進捗状況と課題について聞きたい。</p> <p>5 「ゾーン30プラス」について (1) 当市において、県内で初めて「ゾーン30プラス」が整備されたが、どのような効果を期待し、また設置に当たりどのような課題があったか聞きたい。</p>

順番	質問事項
氏名	
2	<p>1 観光庁のレガシー形成事業に採択された「戦国最強の武将『上杉謙信公』の魂が眠る戦国最強の山城『春日山城』の復元」について</p> <p>(1) レガシー形成事業は、将来にわたり国内外から旅行者を惹きつけ、継続的な来訪や消費額向上につながる地域・日本のレガシーの形成を促すことを目的に、地域と連携しつつ、実現可能性調査(F S調査)や当該調査結果を踏まえたプラン作成を実施するとのことだが、採択された事業では、どのような内容やスケジュールで行われるのか。</p> <p>(2) 「春日山城」の復元とは、どのような状態を目指しているのか。また、この事業の最終着地点はどのようなものか。</p> <p>(3) この事業の課題となるものは何か。</p> <p>(4) 現在策定中の通年観光計画との関係性はどのようになるのか。</p> <p>2 観光資源と地域の誇りに関する市長の思いについて</p> <p>(1) 令和5年7月に行われた「上越市と佐渡市の若手職員による政策提案に向けた研修」における市長講話の際、市長は、観光資源が地域の誇りにつながることを期待する旨の発言をされた。市長の思いを聞きたい。</p>
順番	質問事項
氏名	
3	<p>1 米の仮渡金について</p> <p>(1) J Aえちご上越が示した2023年産の米の仮渡金について、一般コシヒカリは60kg当たり前年比100円増の14,100円であった。農業資材の価格が大きく高騰し、農家の経営がひっ迫している状況で、100円の増額にとどまったことをどのように捉え、米政策に取り組んでいく考えか聞きたい。</p> <p>2 中川市長の失言について</p> <p>(1) 令和5年7月5日に開催された会合において、市長が市内の私立高校に関し発言した内容について、その真意を聞きたい。</p> <p>3 中学校の部活動について</p> <p>(1) 部活動の地域移行が進められる中、令和4年12月に国が示した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を踏まえて、令和5年4月に「上越市部活動指導ガイドライン」が改定された。具体的にどういった取組を進めていくのか。</p>
氏名	
武藤正信	

順番	質 問 事 項
氏名	
4	<p>1 外国人市民の受入れにおける課題や市の取組について</p>
杉田勝典	<p>(1) 市長は、令和5年6月末に外国人市民の割合が多い群馬県太田市や伊勢崎市を視察されたが、市長にとってどのような点が参考になったか聞きたい。</p> <p>(2) 外国人市民が増加している中、日本語教育をはじめ、市はどのような取組を行っているのか聞きたい。</p> <p>2 廃校施設の利活用について</p> <p>(1) 当市でも廃校施設などが増えて、その利活用が大きな課題となっている。豊かな自然を生かし、それらの建物をコワーキングスペースや貸会議室、サテライトオフィスなどに活用してもらうために、県内外の企業や個人などへ積極的に発信してはどうか。廃校施設には、学校時代に使用されていた液晶モニターやWi-Fi環境、家庭科教室や業務用厨房機器など、再利用が可能なケースもあると思うことから、検討してはどうか。</p> <p>3 市所有の文化財や歴史的資料のデジタル化について</p> <p>(1) 歴史博物館において、城絵図などの高精細写真や立体的に見ることができる3D画像、VR画像といったデジタル技術を活用した展示の取組の現状と今後の見通しはどうか。</p> <p>(2) 市所有の文化財や歴史的資料全体をインターネット上で閲覧できる、一元化した「じょうえつデジタルミュージアム」を今後開設してはどうか。</p> <p>4 謙信公生誕500年に向け、春日山観光を盛り上げるための観光庁のレガシー形成事業の採択及び、通年観光計画策定(春日山)との関連について</p> <p>(1) 「将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業」に、「戦国最強の武将『上杉謙信公』の魂が眠る戦国最強の山城『春日山城』の復元」が採択されたことについて、どう捉えているか。</p> <p>(2) 謙信公没後450年・生誕500年などをにらみ、通年観光を一層盛り上げるに当たって、市が進める通年観光(春日山)とレガシー形成事業とはどのように連携させていくのか。また、地元の市民団体とどのように関わっていくのか。</p> <p>5 市内建設業の2024年問題について</p> <p>(1) 全国的に建設業の長時間労働や人手不足などが課題となっているが、市として市内建設業の働き方改革についてどう捉えているか。</p> <p>(2) 適正な工期設定を図るとともに、生産性向上に向けたICTの活用も進んでいるが、市としてどのように考えているか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
5	<p>1 上越地域の医療再編について</p>
高橋浩輔	<p>(1) 燕労災病院は、平成30年に県に移譲され、令和6年2月末に閉院となる。こうした一連の経過を受けて、市では新潟労災病院の存続に関し、これまで危機感を持たなかったのか。</p> <p>(2) これまで市では、新潟労災病院及び、独立行政法人労働者健康安全機構の本部とどのように意思疎通を図ってきたか。</p> <p>(3) 新潟労災病院の閉院が発表されたが、存続する可能性はあると思うか。あるとすれば、どのような方法が考えられるか。</p> <p>(4) 医療再編が大きく動き出す中で、市内5つの病院を中心に、新潟労災病院の機能の分担が行われていく見通しであり、上越地域医療センター病院が担う役割も変化していくと考える。令和2年3月に策定された上越地域医療センター病院基本計画は、今後柔軟に見直していくということであるが、施設等に関する計画のみならず、医師をはじめとする医療スタッフ確保のための構想・計画はつくられているか。</p> <p>(5) 医療再編は、上越圏域全体を俯瞰して取り組まなければならない側面も持っている。このため、当市がリーダーシップを取り、上越地域の3市が連携し上越地域医療構想調整会議に意見を伝えていくべきと考えるがどうか。</p> <p>(6) 今後、上越地域医療構想調整会議の議論はどのように進められていくと考えるか。また、市として、どのような地域医療体制が構築されることを目指し、どのような姿勢で議論に臨むのか。</p> <p>2 平和を願う心の次世代への継承について</p> <p>(1) 戦後78年が経過し、戦争の記憶が薄れゆく中、平和を願う心の次世代への継承が課題となっている。このことに対し、市は現状をどのように捉え、どのような取組をしているか。また、今後どのような方向性で取組を進めていくのか聞きたい。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
6	<p>1 儀明川ダムと山麓線四車線化について</p> <p>(1) 県は、県債の発行に際し国の許可が必要な「起債許可団体」に移行した。県財政は非常に厳しいものと感じているが、長年待望してきた、儀明川ダムや山麓線四車線化の今後の見通しについて確認したい。</p>
<p>こ ん ど う 彰 治</p>	<p>2 市長の政治姿勢について</p> <p>(1) 市長が就任して早2年弱が経過したが、相も変わらず失言などが目を引く。市内の私立高校2校に関する失言は市民を愚弄した言葉だと思わざるを得ない。数々の失言に関して、以下の点を聞きたい。</p> <p>ア 令和5年7月5日、当市で開かれた会合における発言について、このような発言をすることになった経緯と、市長の真意を聞きたい。</p> <p>イ 翌日の7月6日には2校を訪れ謝罪し、両校からは「関係者の声を聞いた上で返答する」と回答があったと報道されているが、内容について聞きたい。</p> <p>ウ 今までにも数々の失言があり、その都度、反省されるが、失言などは後を絶たない。市長は何故このような事を繰り返しているのか自身で分析をしているのか聞きたい。</p> <p>エ 今後このような失言をされた時、市長として、市のトップとしての責任の取り方があると思うが、どう考えているのか。</p> <p>3 北陸新幹線開業10周年について</p> <p>(1) 北陸新幹線上越妙高駅が開業して令和7年3月には早10年が経過しようとしている。また令和6年3月には敦賀まで延伸する。更なる上越妙高駅周辺の発展を期して、10周年記念イベントの計画や今後の展望など、以下の点について考えを聞きたい。</p> <p>ア 10年の節目となる年に向けて、イベントなどを計画すべきと考えるがどうか。</p> <p>イ 開業後の取組が、地元の活性化にどれほど繋がったのか十分に検証し、将来に活かしていく必要があると考えるがどうか。</p> <p>ウ 上越妙高駅周辺地区においては進出企業向けの支援が行われている。市民が活用できる商業施設等の整備も必要であると考えがどうか。</p>

順番	質問事項
氏名	
7	<p>1 エネルギー価格高騰対策とエネルギー戦略について</p> <p>(1) エネルギー価格高騰支援金の申請受付が開始されたが、反響はどうか。</p> <p>(2) 冬期のエネルギー価格高騰支援対策はどうするのか。</p> <p>(3) 当市並びに市指定管理施設での電気事業者の選定基準はどうか。</p> <p>(4) 令和5年2月に策定された第2次地球温暖化対策実行計画において、小水力発電の導入可能性調査を行うとあるが、現在の進捗はどうか。また、現在民間で進行している柿崎区や名立区の小水力発電の状況はどうか。</p> <p>2 姉妹・友好都市等との交流について</p> <p>(1) 市長は令和5年8月にオーストラリアを訪問されたが、その成果はどうか。</p> <p>(2) 新型コロナウイルス感染症の収束を機に、姉妹・友好都市等との相互交流を再開すべきと考えるが、現状はどうか。また、これまでの主な相互交流を聞きたい。</p>
宮川大樹	
順番	質問事項
氏名	
8	<p>1 長野県との交流拡大策について</p> <p>(1) 隣接する長野県民が日本海を有する上越をどのように捉えているか市長の認識を聞きたい。</p> <p>(2) 長野県において直江津港の利活用や観光などの分野で交流人口の増加を図るため、的確な情報発信が必要であることから、県都である長野市に上越事務所を設置する考えがないか聞きたい。</p> <p>2 大規模火災発生時の市民への情報伝達について</p> <p>(1) アメリカ・ハワイ州マウイ島で大規模な火災が発生した。今夏のように猛暑と少雨が続く中、当市においても大規模火災の発生が懸念されるが、市民への情報伝達はどのように行われるのか現状を聞きたい。</p>
池田尚江	

順番	質 問 事 項
氏名	
9	<p>1 「子育て全国一」を目指す当市の子育てサービスをより利用しやすくするための仕組みについて</p>
中 土 井 か お る	<p>(1) 当市の子育て政策は年々充実してきているが、近年は多様な世帯の増加によりニーズが複雑化してきていると感じる。子育てサービスを必要とする人が多くのサービスの中から必要なサービスをタイムリーに選択し、利用できるように、サービスのコーディネート機能が必要と考えるがいかがか。</p> <p>(2) 多くの子育てサービスがある中で、それぞれの家庭が必要なサービスを遠慮せず に選択し、利用するために、子育てチケット制度の導入を検討する考えはないか。</p> <p>2 男性の育休制度の利用促進について</p> <p>(1) 男性の育休取得の必要性についてどう考えるか。また、市の男性職員の育休取得の状況及び取得率向上に向けた取組はどうか。</p> <p>3 障害のある人の社会参加の促進について</p> <p>(1) 現在、障害のある人の社会参加を促進する事業として、タクシー利用券と自動車燃料購入券の交付、自動車燃料購入費助成の3種類がある。障害のある人の中には就労の移動手段としてバスを利用している人もいる。就労継続のためにもバス利用券も必要と考えるが導入の考えはないか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
10	<p>1 水道スマートメーターの活用について</p> <p>(1) 全国的な傾向として水道事業は、人口減少や施設の老朽化による更新費で事業の見直しが求められており、先端技術の活用による事業の効率化は、有効な対策となる。各戸の水道使用量を自動で測ることができる「水道スマートメーター」は、各地で実証実験が行われ、普及促進が図られており、事業の効率化はもちろんのこと、漏水発生時の箇所の早期特定が期待できる。市の取組の現状はどうか。</p>
山田忠晴	<p>2 離婚した家庭の養育費確保に向けた制度の導入について</p> <p>(1) ひとり親家庭への養育費不払いを防ぐため、養育費に関する公正証書作成費用や、保証会社と養育費保証契約を締結する際の初回保証料、裁判外紛争解決手続の費用など、ひとり親家庭を対象に、離婚後の養育費確保に向けた様々な支援体制を導入する考えはないか。</p> <p>3 市職員を対象とした先駆的な「子連れ出勤」の導入について</p> <p>(1) 仕事と子育ての両立へ向けた「働き方改革」の一環として、急きよ子どもの預け先が確保できない場合に利用できる制度・システムである「子連れ出勤」を市内企業に普及させるため、まずは市職員を対象に、先行導入する考えはないか。</p> <p>4 難聴者の会話サポートについて</p> <p>(1) 耳の不自由な高齢者や難聴者と円滑にコミュニケーションを取れるようにするために、市役所市民課、福祉総合窓口又は各総合事務所窓口等に「軟骨伝導イヤホン」を導入して情報のバリアフリー化を図り、個人差なく情報が伝わる環境整備を推進する考えはないか。</p> <p>5 認知症介護の負担軽減について</p> <p>(1) 徘徊の恐れがある認知症高齢者や若年性認知症の人を介護する家族の負担軽減のために、万が一、認知症の方の行方が不明になった場合にインターネットでの検索や、位置情報センターへの電話で居場所が確認できるGPS端末を貸与する制度を導入する考えはないか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
11	<p>1 当市におけるヤングケアラーについて</p> <p>(1) ヤングケアラーとは、ケアを必要とする家族に対して、大人が行うような世話や責任などを担う18歳未満の子どものことである。県は令和3年度以降に県内の児童生徒への実態調査を実施しているが、市としてどのように対応したのか。</p> <p>(2) 県の調査に対する教育委員会の対応を受け、市はどのような対策を講じて早期発見や適切な支援に繋いでいるのか。</p>
高山ゆう子	<p>2 車椅子等の短期貸与について</p> <p>(1) 市では、旅行、通院、散歩など、短期間に車椅子が必要な場合に、車椅子や段差解消のための車椅子用スロープを無料で貸与している。現在、貸出場所は市福祉課及び各総合事務所となっているが、市民からもっと借りやすくしてほしいとの要望があるため、南・北出張所及び15自治区の公民館などに配備し、身近な場所で貸し出しできないか。</p> <p>3 災害における防災対応について</p> <p>(1) 聴覚障がい者は、災害発生等を知らせる防災行政無線や防災ラジオが聞こえず、町内会で実施する防災訓練に参加することも困難な状態だと聞いている。万が一に備え、自主防災組織が行う防災訓練への参加が大切であると考えているが、現状はどのようなになっているか。また、避難所では通訳等の特別な配慮が必要と考えるがどうか。</p> <p>(2) 大災害に備え、また、市民の防災意識を高めるため、当市に防災設備を備えた防災拠点公園を整備する考えはないか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
12	<p>1 マンホールカードの取組への参加について</p> <p>(1) 市は、「デザインマンホール」についてどのような認識をもっているか。また、数や種類にはどのようなものがあるのか。</p> <p>(2) 様々な自治体が、下水道の価値を伝える取組である「マンホールカード」の発行に参加し、全国的な広がりを見せている。市は、「マンホールカード」についてどのような認識をもっているか。また、これまで発行を検討してきたことはあるのか。</p> <p>(3) 「マンホールカード」の発行は、より多くの人に足を運んでもらうきっかけとして有効である。当市も参加すべきと考えるがどうか。</p>
<p>小 山 よ う こ</p>	<p>2 結婚支援について</p> <p>(1) 出会いの場への参加を後押しするため、上越商工会議所と連携して実施している「結婚活動支援事業」により、県の婚活マッチングシステム「ハートマッチにいがた」への入会登録料の助成が始まったが、実績はどうか。</p> <p>(2) 出会いの場への参加を後押しするためだけでなく、「地域を挙げて結婚を応援する機運の醸成」を目的として、子育てジョイカードのように商品の割引などのサービスが受けられるパスポートを新婚や結婚予定のカップルを対象に発行すべきと考えるがどうか。</p> <p>(3) 上越市をもっと楽しんでもらうため、結婚をきっかけに転入したカップルを対象に市が運営する施設の期間限定利用券などを発行すべきと考えるがどうか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
13	<p>1 都市計画道路について</p>
渡 邊 隆	<p>(1) 当市では、平成23年から都市計画道路の廃止及び見直しを進めている。人口減少、交通量の減少、他路線の延伸など、都市計画道路の整備に関する必要性や実現性に係る諸条件は、時代背景で大きく変化する。長期にわたり未整備が続く場合には、市民の世帯構成、土地利用、相続などに影響を及ぼすほか、市街地からの人口流出や狭小団地の空き家問題につながり、まちづくりそのものを後退させているとも考えられる。昭和30・40年代に都市計画決定した都市計画道路が長期未着手となっていることが、まちにどのような影響を与えていると認識しているか。</p> <p>(2) 市ではこれまで、長期未着手の都市計画道路の廃止を進めてきているが、高田市街地の南北を結ぶ幹線である都市計画道路北城町東城町線について、市の考えを聞きたい。</p> <p>2 高田城址公園の広場一体化について</p> <p>(1) 極楽橋南側に位置する南二の丸広場と芝生広場を分断する市道を廃止し、公園広場として一体化させるとともに、スポーツセンターから地域振興局交差点までの市道を新設し、廃止市道から切り替えるよう、平成30年12月定例会において質問したが、その後の進展について聞く。</p> <p>3 たにはま公園ドッグラン施設の充実について</p> <p>(1) たにはま公園のドッグランは、公的な施設としては県内最大規模であるが、植栽による木陰づくりやアジリティ施設の設置により、利用者や犬に一層親しまれる施設づくりを望むがどうか。</p> <p>4 高田城址公園の蓮花生育状況について</p> <p>(1) 毎年蓮花の開花時期になると生育状況が問われるが、歯抜けとなる原因について、これまでの調査状況を聞きたい。</p> <p>5 通年観光計画策定支援業務プロポーザル選定について</p> <p>(1) プロポーザル選定の経緯が報道のとおりであれば、公平性に疑問が残る。改めて選定の経緯及び市長の見解を聞きたい。</p>

順番	質問事項
氏名	
14	<p>1 保倉川放水路整備について</p> <p>(1) 令和5年7月26日に国による第24回関川流域委員会が開催されたが、保倉川放水路整備に関する審議内容はどうか具体的に聞きたい。</p> <p>(2) 整備に向け、現在、国、県、市の動きはそれぞれどのようなになっているか。また、今後、市は事業着手に向けどのような形で進めていく考えか。</p> <p>(3) 地元町内会では、現在、放水路事業に伴うまちづくり協議会発足に向けた準備が進められており、令和5年10月にも正式に発足する予定である。今後、市として協議会との関係性をどのように考えているか。</p>
波多野一夫	
順番	質問事項
氏名	
15	<p>1 当市における公共事業の発注、入札及び契約について</p> <p>(1) プロポーザル方式に関し、基本的なルールが定まっていないように見受けられる。プロポーザル方式を活用していく際、どのような原理原則で臨んでいるのか。これまでのプロポーザル方式を使った発注において、反省すべき点はなかったか。</p> <p>(2) 民間との契約時、要綱・要領や仕様書は、受発注の信頼性の根本を維持していくために、厳密に作成され、運用されなければいけない。その点課題はなかったか。</p> <p>(3) 入札参加業者のランク付けを運用する基本的な考え方を聞きたい。</p> <p>(4) 建設投資が大幅に減少する中、地域経済の維持を図るため、入札及び契約においても地域の担い手確保に資する工夫が必要だが、市としてどのように対応するのか。</p> <p>(5) 当市における公共事業の入札及び契約について、公共事業に携わる民間企業、団体からの意見・要望を適宜受け止めているか。</p> <p>2 「雪と生きるまち上越」について</p> <p>(1) 当市のアイデンティティは、「雪と生きるまち」と考える。市長も、市民との意見交換等で、しばしば「雪という存在が我々のまちの歴史、文化、生活等に大きくかかわってきた」「雪は上越市の観光等において活用資源となり得る」などと発言している。上越市における雪の有意性があるとするならばそれは何か。また、それらを観光施策などに具体的にどう反映させていくのか。</p> <p>(2) 除雪作業を担っている建設業者等へのサポートは適切か。</p> <p>(3) 下水熱利用による消融雪設備の可能性について聞きたい。</p> <p>(4) 河川水加熱型消雪パイプの熱源としての木質ボイラーの可能性について聞きたい。</p>
滝沢一成	

順番	質 問 事 項
氏名	
16	<p>1 上越市(直江津区)のまちづくりと観光振興について</p>
丸 山 章	<p>(1) 直江津区は、高田区と同様に対外的な認知度が他地域に比較して極めて高く、この地域の存在感をさらに高めるため、核となるオンリーワンのまちづくり(観光振興)を目指すことが重要である。ひいては、他地域にも良い影響力、大きな波及効果をもたらすことが期待できる。平成31年3月定例会の一般質問において、高田城址公園の観光資源である桜をテーマに、上越市全体を日本庭園に見立てた「日本桜庭園・上越」構想という、日本・世界に類を見ない規模の、高田区はもとより上越市全体のまちづくり(観光振興)策を提言した。この度は、次に掲げる事項を中心とする直江津区の素材を活かしたまちづくり・観光振興策を提言するが、いかがか。</p> <p>ア 名称 「オーシャン・ヒストリーロード」構想</p> <p>イ キーワード 歴史文化、海、夕日</p> <p>ウ コンセプト 「オーシャン・ヒストリーロード」に歴史文化・海&夕日をテーマとした直江津の特徴・素材を生かした整理された美しい街をつくる。美味しい食材(地魚・お米等)と地酒をとことん味わっていただくとともに、上越(直江津)ならではの風情に浸っていただく。</p> <p>エ ねらい 国内外の観光客の増加、宿泊観光(市内経済の活性化)へ導く、移住定住、市民の更なる向上心の醸成。</p> <p>オ 位置 うみがたりから安国寺通り(県道直江津停車場線)を経て直江津駅までの約1km。</p> <p>カ オブジェ及び街灯の設置 うみがたりに展示している魚類のオブジェ及びコンセプトに沿った街灯を設置し、夕日にちなむ色合いで街を照らし、「オーシャン・ヒストリーロード」を特徴づける。</p> <p>(ア) オブジェの費用 事業費は1億50万円(150万円(平均)/1体×67体)、財源は社会資本整備総合交付金、補助金、クラウドファンディング、ふるさと納税等とする。</p> <p>(イ) 街灯の費用 事業費は2億100万円(300万円/1本×67本)、財源は社会資本整備総合交付金、補助金、ふるさと納税等とする。</p> <p>キ 町家等の改修 昭和(町家)の風情を復活させる(令和3年3月定例会の一般質問における提案のとおり。)</p> <p>ク 道路色 ブルー又はオレンジ色に統一(色の明るさは中明度、中彩度)</p> <p>ケ 無電柱化 管路設置費は3億5,000万円(35万円/m×1,000m)、財源は補助金(1/2)及び地方債(充当率75%)、電気通信設備費は電力会社負担。</p> <p>コ やすらぎ(歩行者)天国 認知度が高まって来た場合は県と協議の上、やすらぎ天国を設ける。時間帯は状況に応じて要検討。さらに、将来的には状況に応じて、市民の賛同の下、道路整備(県道の移転含む。)を視野に、歩行者優先(専用)道路(約600メートルの直線)とすることを検討する。</p>

2 業務委託（通年観光計画策定支援業務）に伴うプロポーザル方式について

- (1) 事業者を選定するに当たり、選定委員会が設置され、市職員2人・民間5人が選任されたが、選任の経緯を聞きたい。また、事業委託した業者は、昨年からの通年観光に関する市の計画策定プロセスに関与してきたとの報道があったが、委員はこのことを知っていたのか。
- (2) この度の「通年観光計画策定支援業務委託」業者の選定は、プロポーザル方式により業者を決定したが、その選定過程において大きな疑義が生じてしまった。選定に当たって、公平・公正性、競争性、透明性を担保できなければ、市民に不信感を与えてしまうことから、プロポーザル方式における評価の在り方、選定基準・規定等を整備する必要があると考えるがどうか。

3 行政の組織体制について

- (1) 副市長4人制について、国、シンクタンク等と人脈を作っていくことは、市長個人だけでは無理があり、専門性を持った人材が必要とのことであるが、2人の副市長は部長経験者であるうえ、部に専門性を持った部長を配置していることから、副市長を4人にしなくとも何ら支障はないと考えるが、いかがか。
- (2) 理事について、政策監会議を主宰し、統括することをはじめ、各部局に指示し、分野横断的な政策課題を検討・研究するほか、市政の重要課題に関する事務レベルの総括的な調整結果を特別職へつなぐなど、事務方のトップの職であるとのことであるが、これこそが副市長のマネジメントと考えるがどうか。
- (3) 部長等を除くその他の部長級職員（10人）についても、大局的な視野及び将来展望に立って部等の方針を決定し、部下職員を統率して所管業務を推進する職務を担うとしているが、これは部長のマネジメントである。その他の部長級職員は、部長の下に（仮称）上席課長として整理すべきではないか。

順番	質 問 事 項
氏名	
17	<p>1 地域おこし協力隊受入れ後の成果と影響について</p> <p>(1) 地域おこし協力隊を受け入れた地域や団体は、本来の目的を達成できているのか。また、地域との信頼関係は良好なのか、活躍できているのか聞きたい。</p> <p>(2) 最長3年という制限された期間の中で、隊員から当初の任務以外の求めがあった場合、行政や地域の団体はどのようなサポートをしているか。</p> <p>(3) 隊員の3年後の退任を見据えて、受入れ、育成をしているか。そして導入した事が人手不足の解消だけになっていないか聞きたい。</p> <p>(4) 任期終了後の定住率はどうか。また、就業率・起業率などについて詳しく知りたい。</p>
<p>本 山 正 人</p>	<p>2 各区総合事務所敷地内環境整備について</p> <p>(1) 地域にとって総合事務所の存在は、なくてはならない拠点であり、市民の拠り所でもある。建物周辺及び敷地内の清掃や、除草管理体制を聞きたい。</p> <p>(2) 総合事務所に勤務する職員の清掃に対する意識はどのようなものか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
18	<p>1 デジタル社会の実現に向けた市の取組について</p>
スト ラ ツ ト ン 恵 美 子	<p>(1) 「インターネット上に構築された仮想空間」メタバースは、ゲームやライブ配信などの娯楽性の需要が高いと思われてきたが、ビジネス分野での利用拡大が期待されると同時に、地方創生として活用される事例も増えてきている。メタバースを活用した取組について、市の見解を聞きたい。</p> <p>(2) 特定の地域やコミュニティ内だけで流通、利用できるデジタル地域通貨の導入は、地域内での経済循環を促し、地域のコミュニケーションプラットフォームとしても利用できるだけでなく、経済活動が可視化され、データに基づいたマーケティングリサーチも可能と言われているが、導入する考えはあるか聞きたい。</p> <p>(3) デジタル図書館を新設してはどうか。</p> <p>2 当市における道の駅の有効活用について</p> <p>(1) 高速道路のサービスエリアやパーキングエリアのような24時間利用できる休憩施設の一般道路版として普及した「道の駅」は、令和5年8月4日時点で全国に1,209箇所が国土交通省に登録されている。当市には、3つの道の駅「うみてらす名立」、「よしかわ杜氏の郷」、「雪のふるさとやすづか」があるが、これらを活用した当市の観光戦略について見解を聞きたい。また、市内外、県外からも多くの人を訪れる当市において、新たな「道の駅」を設置する考えはあるか。</p> <p>(2) 全国の道の駅でもEVスタンドなど充電インフラが整備され、充実してきている。当市にも設置されている道の駅はあるが、その利用状況と効果をどう検証しているか。また、脱炭素社会の率先として、今後さらに充実させるべきと考えるがどうか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
19	<p>1 当市の道路維持と道路整備に関し懸念される課題について</p>
宮崎 朋子	<p>(1) 第3期上越市道路整備計画(令和2年度～令和6年度)に基づき、これまで確実に道路整備が進められていると認識している。しかしながら、今後、人口減少が見込まれる中、市域が広大な本市においては、以下のような課題が生じることが懸念されるが、これらの課題への対応について聞きたい。</p> <p>ア 道路維持に関し、今後、人口減少で住民の目が行き届かなくなる路線も増えるのではないかと懸念するが、どう対応していくのか。また、道路パトロールにおいて、民間事業者の人手不足の影響にどう対応していくのか。市では道路の損傷を市民からLINEで通報できるようにしているが、その認知度と通報事案はどのように反映しているか。</p> <p>イ 次期道路整備計画の策定にあたっては、人口減少で交通量が少なくなることが想定され、道路整備評価項目(特に車両や歩行者の通行頻度や小中学校の通学路の条件)に影響が出るのではないかと懸念するが、市ではどう考えているか。また、実施に至らず年数が経過している地域要望に関しては、その目的や通行状況、周辺環境の変化を今以上に丁寧に聞き取り、様々な方策の提案と次代を見据えた整備計画の策定を目指してほしいが、どう取り組んでいくか。</p> <p>(2) 「地域独自の予算」が市から提案された際、外側線の引き直しや、道路修繕、草刈りなども対象にしてほしいという市民の声もあったが、官民協働と地域課題の解決、住民自治の観点において、市ではどのように考えているか。</p> <p>2 冬期道路の吹き溜まりやホワイトアウトの対策について</p> <p>(1) 市では毎年、地域や事業者へ聞き取りを行い除雪計画を作成している。しかし、近年は吹き溜まりやホワイトアウトでの交通障害や孤立の課題もあると感じているが、市としてその把握はできているか。また、その予防や危険回避に向け、新技術の導入や研究に関する情報収集はどのように行っているか。市には、住民と通行の安心安全のために様々な視点で取り組んでほしいがどう対応していくか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
20	
木 南 和 也	<p>1 市長の失言について</p> <p>(1) 令和5年7月5日に開催された会合における市内私立高校2校に関する発言の真意について聞きたい。</p> <p>(2) 市長は、私立高校2校を訪れ謝罪し、謝罪文も提出したとされているが、どのような内容で謝罪したのか。また、謝罪や謝罪文の提出により、一定の理解を得ることができたと考えているのか。</p> <p>2 当市の教育政策について</p> <p>(1) 当市では昨年度末、「わくわくを未来へ」という教育大綱に連携して「上越市第3次総合教育プラン」を策定し、教育施策をまとめた。プラン策定の背景、国の教育施策の動向との関わり及び基本的な考え方について聞きたい。</p> <p>(2) 学習指導要領のカリキュラム・マネジメントの項では、「学校教育の効果を常に検証して改善する」ことが求められている。これまで当市が学力の指標として結果分析している標準学力検査(NRT)は、相対評価法による検査であり、全国の学力水準と比較して相対的に学力を把握するためのものであると認識しているが、当市の教育プランで求める児童・生徒のありたい姿や国の学習指導要領の中で求めている資質・能力を実際に習得できているのかどうかについて、標準学力検査(NRT)以外の方法でどのように評価・把握しているか。</p> <p>(3) 当市の教育プランは、標準学力検査(NRT)で偏差値平均が小・中学校ともに「緩やかな下降傾向」であるとしており、「学力向上の推進」を目指す当市にとって大きな課題である。今後、学力を向上させるための新たな取組や方策が必要であると考えるが、具体的にどのような手立てを実践しているのか。</p> <p>(4) 「全国の教員不足に関する実態の調査」によると教員不足で新年度を迎えた公立学校は1,897校2,086名である。当市において、臨時的任用教員等の確保ができず、欠員が生じたケースがあるか。また、令和4年度に心身の病気などで90日以上以上の長期にわたり休職した教員の人数はどうか。</p> <p>(5) 「学校の「働き方改革」推進パンフレット」によると、令和4年度に年間720時間を超えて勤務した教職員が中学校では約25%にも達したとされている。教職員の超過勤務の状況を解消するためにどのような取組が進められているのか。また、教職員の超過勤務の実態や解決に向けた取組から見えてくる新たな「課題」があれば聞きたい。</p> <p>3 「通年観光プロポーザル」に関する一連の報道について</p> <p>(1) 一連の「通年観光プロポーザル」に関する報道について、市長の見解を聞きたい。</p> <p>(2) ある報道によると、プロポーザル開始時点での選定委員は過半数以上が市職員であり、公正さを明確にするため選定委員を急きょ入れ替えたとあるが、事実か。また、国のガイドラインでも「設計者の特定にあたっては、公平性、透明性、客観性</p>

を確保するために、設計者の提案を適正な体制で審査することが必要」と述べているが、審査過程において選定委員が入れ替わるなどの事態が生じないよう、「プロポーザルに関するガイドライン」等を整える必要があると考えるがどうか。

4 直江津区の地域課題について

- (1) 令和4年第6回定例会の直江津屋台会館の今後の活用についての一般質問に対し、サウンディング調査の時期を令和4年度の後半から始める旨の答弁があった。調査の結果も含めてどのように計画が進捗しているのか。

5 名立区の地域課題について

- (1) シーサイドパーク名立は、安全点検でローラースライダーを含むいくつかの遊具に不具合が見つかったと聞く。シーサイドパーク名立は、令和4年度に16,000人以上の利用があり、さらに需要の拡大が見込まれる施設である。今後の修繕についてどのような計画で進めていくのか。

6 新幹線の上越妙高駅停車機会拡大に向けた方策について

- (1) JRは北陸新幹線敦賀開業日と新たな運行計画を発表したが、かがやきの上越妙高駅停車は実現しなかった。これまでかがやきの停車に向けた働きかけを行ってきたが、この結果に対する見解を聞きたい。
- (2) コロナ前の平成29年、新幹線の停車機会の拡大を目指し、「利用動向調査」を実施してきた。市としては平日の利用者数の拡大が鍵であるとしていたが、ポストコロナ後の社会が大きく変化した中で、コロナ前と比較して上越妙高駅の利用者数はどのように変化してきたのか。また、今後、新幹線停車機会の拡大に向けて戦略を練り直す必要があると考えるがどうか。

順番	質 問 事 項
氏名	
21	<p>1 子育てジョイカード事業の拡充について</p> <p>(1) 市は多子世帯への支援として子育てジョイカード事業を行っているが、市内で3人以上子どもを養育する多子世帯の割合はどのぐらいか。また、2人以下の世帯への拡充の必要性についてどう考えているか。</p>
鈴木めぐみ	<p>2 小中学校の熱中症対策について</p> <p>(1) 令和5年の猛暑下での児童生徒の熱中症の被害及び対応状況はどうだったか。</p> <p>(2) 熱中症警戒アラートが発令された場合における活動に対しては、どのような対策を講じることとしているのか。</p> <p>(3) 熱中症を予防するための対応として、体育や屋外での活動後に塩分を摂取できるタブレットを配布することや、空の水筒に補充するためのお茶を準備すること、また、マスクを着用しないことを改めて推奨すべきと考えるがどうか。</p> <p>(4) 校舎内における普通教室以外の教室へのエアコンの設置状況はどうか。また、設置していない教室については、早期に設置すべきと考えるがどうか。</p> <p>3 特殊詐欺対策の推進について</p> <p>(1) 報道によれば上越市内では特殊詐欺被害が多く発生し、県内ワースト1となっている。市として、この現状をどのように受け止めているか。また、被害防止に向けて対策の強化が必要と考えるがどうか。</p> <p>4 ふるさと納税制度を活用した取組について</p> <p>(1) 市内の旅先で利用できる電子商品券等を発行し、市外の方を市内への観光に誘導することで通年観光を促進すると考えるが、市の見解はどうか。</p> <p>(2) NFTや地域内電子マネーの活用が広がっている。市もこのような次世代技術をふるさと納税に活用すべきと考えるがどうか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
22	<p>1 小学校の教科担任制について</p> <p>(1) 国は、小学校の教科担任制を進めているようだが、市内の小学校の現状はどうか。今後の対応をどう考えているか。</p>
栗田英明	<p>2 合併前上越市域の地域自治区事務所の設置について</p> <p>(1) 上越市自治基本条例では、地域自治区内に事務所を置くことになっているが、合併前上越市域の15区には設置されず、3つのまちづくりセンターで代替している。このような状況は、旧町村域の13区に「地域自治区事務所」と行政出張所を統合させた形で「総合事務所」を設置していることと比べると不公平感が否めない。ついては、以下の点について聞きたい。</p> <p>ア 高田区地域自治区事務所と南出張所を統合させて雁木通りプラザに「高田区総合事務所」を、直江津区地域自治区事務所と北出張所を統合させてレインボーセンターに「直江津区総合事務所」を設置したらどうか。</p> <p>イ コミュニティプラザは地域自治の象徴であり、地域活動の拠点施設として旧町村域13区には整備された。このため、原則、総合事務所はコミュニティプラザ内に置かれている。そして、基本的にはコミュニティプラザの管理は地域活動団体が行うこととなっている。にもかかわらず、合併前上越市域15区にはコミュニティプラザも設置されていない。上述の雁木通りプラザとレインボーセンターはそのまま両区のコミュニティプラザにし、残り13区内は区内の公民館をコミュニティプラザにしてはどうか。</p> <p>3 地域自治の強化について</p> <p>(1) 地域自治区制度の採用は、地域自治の強化が目的であった。それを担保するため自治基本条例を制定し、市民自らがまちづくりに参画し、自分たちのまちを市民自らが作っていける市民協働を高らかに謳った。さらに、もっと身近な地域の課題解決や地域づくりを住民の意思で行える仕組み、都市内分権をめざして地域自治区制を採用した。これにより、地域活動団体の強化、育成、自主自立のまちづくりが進むはずだった。当市における地域自治区制度は、地域自治の推進に寄与していると考えているか。</p> <p>(2) 地域自治の担い手は「住民」である。住民のまちづくり意識の醸成、啓発にもう一度取り組む必要があるのではないか。</p> <p>(3) 地域自治の担い手には「町内会」や地域活動組織などの団体も大きな役割を持つ。地縁組織は任意団体でもあり手出し口出しはできないが、できる限りの支援をし、信頼関係を強固にしていくことが必要と考える。また、地域活動団体との連携も強化し、運営や活動面でも支援していくことが必要ではないか。</p> <p>(4) 地域協議会は上越市の地域自治の柱であり、「協働の要」である。地域自治の担い手である住民や町内会、活動団体とともに地域づくりを推進していく役割を再度</p>

	<p>確認した上で、令和6年4月の改選に向かっていくべきと考えるがいかがか。</p> <p>(5) 地域自治は一朝一夕に確立するものではない。まずは行政から手を差し伸べ、信頼関係を築き、人を育て、実行部隊を強化し、ようやく協働のパートナーとして、ともにまちづくりができるようになる。そしていつか地域自ら自主自立のまちづくりができるようになる。そこまで行政はしっかり面倒を見る覚悟が必要だ。各地区はみんな違う個性を持ち、違う手順で、違うスピードで自立への道を歩む。それぞれの地域にあった進め方を考えるのが地域自治区事務所だ。地域自治の推進のためには、行政職員のかかわりが極めて重要であり、地域に入り問題提起したり相談したりすることが大切だと考えている。ついては、地域独自の予算についてもそのような考え方の下、仕組みを変えていかなければならないと考えるがどうか。</p>
<p>順番</p>	<p>質 問 事 項</p>
<p>氏名</p>	
<p>23</p>	<p>1 第3期上越市道路整備計画の整備評価基準の見直しについて</p>
<p>飯 塚 義 隆</p>	<p>(1) 本計画は、令和元年12月に第3期計画(令和2年度から6年度まで)を策定し、新たに市道81路線の整備に着手するとしている。同計画期間の4年が経過するが、この間の整備の進捗状況を聞きたい。</p> <p>(2) 市道整備は、路線ごとに緊急性、効率性、必要性等を評価し、優先順位を定めた上で整備が進められている。評価の低い路線は、整備計画に登載されず、いつまでも整備されない。評価の低い路線で、町内会から長年にわたり要望が繰り返されている状況の中、整備評価基準を見直すべきではないか。</p> <p>2 上越市雨水管理総合計画の進捗状況と未整備地区の計画について</p> <p>(1) 本計画は、平成31年度から20年間を計画期間とし、5年に1回を基本として適宜見直しを行うとしている。策定から5年が経過し、見直しの時期に該当するが見直しを行うのか。</p> <p>(2) 本計画は、現状と背景から始まり、計画期間、整備方針、整備地区、整備優先度等を詳細に記載している。策定から5年が経過し、この間の整備の進捗状況を聞きたい。また、未整備地区の具体的な整備内容はいつ明らかになるのかを聞きたい。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
24	<p>1 当市における外国人労働者家族との共生について</p>
大島洋一	<p>(1) 近年、地域の企業に就労する外国人が急増し、外国人労働者家族が増えている。そこで、以下の点について聞きたい。</p> <p>ア 市として外国人労働者家族の生活環境をどう整備し、共生するまちづくりを目指すのか。また、災害発生時における避難や避難所での外国人とのコミュニケーション、さらにアパート居住の外国人の安否確認(人数把握)の問題があると考えるが、市の対応を聞きたい。</p> <p>イ 外国人の子供たちの教育環境や、日本語支援の現状はどうか。そして、日本語の習得に困難を抱えている小中学生や、日本の高校進学を希望する中学生への日本語学習支援について聞きたい。</p> <p>2 頸城油田の産業遺構について</p> <p>(1) 現在上越市立歴史博物館で開催中の「頸城油田の盛衰」において分かるように、当市には日本初の石油パイプラインが敷設されており、石油・天然ガスの顕著な近代産業遺構がある。当市におけるこれらの近代産業の盛衰とその影響、先人の業績やその苦労に思いを致し、上越市とエネルギーとの深いつながりを再認識できるよう、遺構の記念碑や看板設置、現地への道整備などを行い、広く世に伝えるべきではないか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
25	<p>1 「まちづくり」を進める上での市政運営の基本戦略について</p>
宮越馨	<p>(1) 「まちづくり」の基本は、そのまちの価値をどう高めるかにかかってくる。上越市のまちづくりをどのようにしようとしているかを改めて聞きたい。また、市長任期折り返しの時点においても、さしたるまちの動きが見えないが、第7次総合計画に依拠するのみではなく、市長自身の上越市の発展ビジョン(例:のびやかJプラン)をどう考えているか。</p> <p>(2) 「まちづくり」の進め方の基本は、まちの歴史文化をベースに「総合的・俯瞰的」「体系的」「計画的」に進めなければならないが、ただただ「通年観光、通年観光」と騒ぐのみで、具体策は出てこない、では困る。足踏みするばかりではなく、直ちに多くの市民が待望している「高田城の枳形門の復元」や、「かがやき号」の停車、春日山駅名を「謙信公駅」へと名称変更するなど予算をかけず効果が出るような具体策もある。そして「街ノベーション」はまちづくりの基本である(私の市政報告を参照)。もたもたせずに見える政策を直ちに打ち出すべきと考えるが、具体的に何を実行しようとしているか。</p> <p>(3) 公的行事として公費を使いながら、数多く開かれている「移動市長室」や「市民と市長との対話集会」の目指すものは、まちづくりの在り方を探求することにあると思う。しかし、その実態は陳情会に見えるが、これまでの成果として、具体的などのような面で市政に反映されているのか。</p> <p>(4) 威勢よく、荒唐無稽な発言とも受け止められている、子育て日本一、住みよさランキング全国1位、雁木通りの世界遺産を目指すという目標を掲げているが、どういう対策をとりながら目的を達成していくか、その内容と達成状況と今後の見通しについて聞きたい。また、令和5年6月定例会での私の質問に対し、人口減少対策として「やらなければいけないことは多数ある」と発言しているが、多数あるとした中川市長ならではの具体的な政策を示してほしい。</p> <p>2 「まちづくり」の重要な根幹事業である公共下水道整備区域の見直しの一部修正の是非について</p> <p>(1) 金谷地区大貫平山団地及び和田地区西田中企業団地区域(同区域の上越大通り沿いも含む。)を公共下水道整備区域から除外するという見直しは、区域関係者の十分な理解が得られるに至っていないと認識する。また、本来の下水道法の理念と照らし合わせても、当該2地区の事業の見直しは不合理であり、民意を反映しているとは言い難い。したがって区域関係者の意向を尊重し、当初計画通り公共下水道整備を推進し、都市住民の生活環境(資産価値)の向上及び企業活動の円滑化に資するようまちづくりを進めるべきと考えるが、所見を聞きたい。</p> <p>(2) 当該2地区の公共下水道施工区域の見直し範囲は、このたびの見直し予定区域全体の面積のうちどの程度に当たるか。また、市内全整備区域面積に対して占める割合はどうか。さらに、2地区の見直しを外した場合の事業費はどの程度変動し、全</p>

体に及ぼす影響はどうか。

- (3) 都市計画(公共下水道整備区域)の決定は市長が行うものの、住民(都市計画税の負担者など)の意見を聞くとともに都市計画審議会に諮った後に最終決定となるが、これまでの進め方、即ち手続として見切り発車的な整備(改定合併浄化槽整備事業等)を行うなど瑕疵はなかったのか。
- (4) 国及び県からの指導もあり、人口減少下における公共下水道整備の在り方を見直すというが、こうした事業の推進に当たっては施行自治体の事情を十分踏まえて行うのが通例である。当市のまちづくりの観点から判断するならば、2地区とも山麓線の整備の進展地域、新幹線周辺の整備が進む地区である。人口が増え、また、企業進出が進む地区であり、上越市の発展に著しく貢献する地区でもある。したがって「まちづくり」の視点からしても2地区を外す理由が見つからない。まちづくりの視点からその必要性についての所見を聞く。

3 中川市長の政治姿勢と政治家としての本質・資質について

- (1) 市長の市政運営のスタンスにはバラバラ感があり、場当たりかつ職員への丸投げを強く感じる。また、しがらみのない市政というのが実態は異なるように疑問が残る。いったいどのような考えで、何を目的として市長職を目指したかを改めて聞きたい。
- (2) 私の質問だけでなく、様々な質問(記者会見も含む。)に対しても的確かつまともな答弁は少なく、市民も含めて大いに困惑している。また、本会議における部長等の答弁が多く、政治的責任のある市長とのやり取りが軽んじられている。市長の答弁が中心になって質疑・質問ができるように改善の余地はないか。
- (3) 任期半ばになっても意図的に私との政策協定を果たそうとしないことが、まちの発展に大きな後れを取っていることは誠に残念でならない。市長の政治力・政策力・実行力・決断力に限界を感じるが自らをどう評価しているのか。
- (4) 数々の異常ともいえる言動(場当たりの発言・人の心を傷つける)を見るに、ただただ権力を持つ市長になりたかっただけとしか思えない。市民の失望感が高まるばかりだ。市長職を何と心得ているか、その「心」「真意」を聞きたい。
- (5) 中川市長の市議会議員2期8年の間に取り組んだ政策はどうであったか。市長として取り組む政策(公約)との関連性と実効性、有効性について聞きたい。
- (6) 市内の特定私立高校への発言など、市民に向けての言動は、上越市長の歴史上あり得ない言動が多すぎる。中川市長は常に「ふるさとを愛そう(地元愛)」と言っているにもかかわらず、こうした市民に対してリスペクト(敬意・尊重・配慮)を欠く資質・言動は出处進退問題に値する。県下第3の都市の地位を下げるばかりで、市長の器に非ずと言わざるを得ない。所見を問う。

<p>順番</p>	<p>質 問 事 項</p>
<p>氏名</p>	
<p>26</p>	<p>1 小中学校の環境整備について</p>
<p>平 良 木 哲 也</p>	<p>(1) 小中学校の体育館と特別教室にエアコンを設置すべきではないか。 (2) 小中学校の各教室に加湿器を設置すべきではないか。</p> <p>2 小中学校の給食費について</p> <p>(1) 小中学校の給食費を無料にすべきではないか。</p> <p>3 生活保護受給者への支援等について</p> <p>(1) 生活保護受給者向けのエアコン購入費補助の条件緩和及び、電気代の補助を市独自で行う考えはないか。</p> <p>4 離婚後の養育費確保の促進について</p> <p>(1) 市として養育費を立て替える制度を含めた様々な支援体制を導入すべきではないか。</p> <p>5 相続土地国庫帰属制度の窓口設置について</p> <p>(1) 市として相続土地国庫帰属制度の相談窓口を設置してはどうか。</p>

順番	質 問 事 項	
氏名		
27	<p>1 原子力発電について</p> <p>(1) 先の総括質疑で、市長は「災害現場での市民の避難行動が円滑かつ安全に行われることが担保される」「市民の確実な避難が一層進められる計画になった」と評価しているが、その根拠を聞きたい。</p> <p>(2) 県の3つの検証(委員会)の活動が大詰めを迎えている。専門家がないことや、県民の声を吸い上げていない中で、県が独自にまとめようとしているのはおかしいとして、市民検証委員会が独自に総括文書を準備している。市長はこうした動きをどう見ているのか。</p> <p>2 通年観光計画策定支援業務委託について</p> <p>(1) 報道機関が関与している会社との契約についてどう考えているか。</p> <p>3 渇水・高温による農作物等の被害について</p> <p>(1) 最新の情報に基づく被害実態とその特徴について聞きたい。</p> <p>(2) 特に中山間地域において、今後も営農を継続してもらうために、どのような課題があると考えているか聞きたい。</p> <p>(3) 国や県に対する要請をどのようにしているか聞きたい。</p>	
橋爪法一		
順番	質 問 事 項	
氏名		
28	<p>1 上越地域医療構想及び新潟労災病院の今後について</p> <p>(1) 上越地域医療構想調整会議での議論をどのように受け止めているか。また、上越地域医療構想に関して、上越地域で取り組まなければいけない課題は何か。</p> <p>(2) 新潟労災病院が今後閉院する見通しとなった。市民の中には、地域から病院がなくなることへの不安がある。市民に対して納得のできる説明をどのように進めていくか。また、閉院後の円滑な機能移転など、市民の不安解消のために市として取り組めることは何か。</p> <p>2 地域自治の推進について</p> <p>(1) 地域独自の予算事業の改善に向けた検討の状況はどうか。</p> <p>(2) 地域協議会の役割と地域協議会に期待することを、どのように考えているか。</p> <p>(3) 令和6年4月に地域協議会委員の改選が予定されている。市が考える地域協議会の役割を担い、地域自治推進プロジェクトが目指す「地域のことは地域で決めて、地域で実行する地域自治の仕組みの強化」に資するような地域協議会にするために、改選に向けてどのように取り組んでいくのか。</p>	
安田佳世		